

- 15) P. Glansdorff and I. Prigogine: Thermodynamic Theory of Structure, Stability and Fluctuations (Wiley-Intersciences, London and N. Y., 1971).  
 16) D. D. Joseph: Stability of Fluid Motions, I and II (Springer, 1976).  
 17) G. Matsumoto: Biol. Bulletin **150** (1976) 279.

## Fluctuation and Relaxation of Transient Laser

東大・理 有 光 敏 彦

急に発振状態におかれたレーザーが、自然放出により光を出しはじめ、定常的発振状態におちつくまでの極く短い時間の中に、光子数分布にひじょうに大きなゆらぎが観測されている<sup>1)</sup>。この現象は、非平衡系の不安定点近傍では、一般的にみられるものである。このような現象を扱う一つの方法として、スケーリング理論<sup>2)</sup>が提出された。このスケーリング理論を、H. Risken<sup>3)</sup>によって導びかれた半古典的レーザーモデルに応用し、F. T. Arecchi et al.<sup>1)</sup>による自分たちの実験の解析と比較し、スケーリング理論がひじょうに有効であることを示す。また、レーザーの過渡的現象を扱った種々の理論があるが<sup>4)~7)</sup>、今興味ある実験の解析としては、スケーリング理論が物理的直観にもうったえやすく、すぐれていることがわかる。ちなみに、スケーリング理論では分布関数が解析的に求まるが、他の理論では固有関数展開による無限級数でしか求められない。

初期状態の不安定点からのずれを示すパラメータ  $\delta$  と、系の大きさ（レーザー系ではポンピング強度の2乗、つまり定常発振時の光子数）の逆数  $\epsilon$  において、(i) 不安定点上からの緩和 ( $\epsilon^\mu/\delta \rightarrow \infty$ )、(ii) 不安定点近傍での緩和 ( $\epsilon^\mu/\delta \equiv \tau^\mu = \text{finite}$ )、(iii)  $\Omega$  展開<sup>8)</sup>の使える緩和 ( $\epsilon^\mu/\delta \rightarrow 0$ ) と分類できるが、紙面の都合上 (i) の場合の結果だけをここに記すことにする。

Risken<sup>3)</sup>の式を変数変換すると、

$$\frac{\partial R}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x} \{2x(1-x)R\} - 2\epsilon \frac{\partial}{\partial x} x \frac{\partial}{\partial x} R = 0 \quad (1)$$

とかける。ただし、 $x$  は光子数に比例し、 $R$  は光子数分布関数、 $\epsilon = 2/a^2$  で、 $a$  はポンピング強度に比例した量である。(1) より、初期領域及びスケーリング領域での分布関数  $R_{ini}$ ,  $R_{sc}$  と、母関数  $Z_{ini}(\xi)$ ,  $Z_{sc}(\xi)$  は次のように与えられる。

1) 初期領域

$$R_{ini}(x, \tau) = \frac{1}{2\tau - \epsilon} \exp\left[-\frac{x}{2\tau - \epsilon}\right], \tag{2}$$

$$Z_{ini}(\xi) = 1 / \{1 - (2\tau - \epsilon)\xi\}, \quad \tau = \frac{\epsilon}{2} e^{2t}. \tag{3}$$

2) スケーリング領域

$$R_{sc}(x, \tau) = \frac{\tau}{2\mu\{\tau - (\tau_1 - \tau)x\}^2} \exp\left[-\frac{x}{2\mu\{\tau - (\tau_1 - \tau)x\}}\right], \tag{4}$$

$$Z_{sc}(\xi) = e^{\xi\beta} \left\{1 + \sum_{m=1}^{\infty} \frac{\xi^m}{m!} (-\alpha\beta)^m \Gamma(1-m, \alpha)\right\}, \tag{5}$$

ただし、 $\alpha = 1/\{2\mu(\tau - \tau_1)\}$ ,  $\beta = \tau/(\tau - \tau_1)$ ,  $\mu = 1 - \epsilon/(2\tau_1)$ ,

$\Gamma(z, p) = \int_p^{\infty} e^{-t} t^{z-1} dt$ ,  $Z(\xi) \equiv \langle e^{\xi x} \rangle$  である。 $\tau_1$  は初期領域とスケーリング領域のつなぎ目をあらわす。

図1に  $a = 25$  の場合の分布関数の時間発展を示す。また、(3) (5) から求めた、光の強度とゆらぎの時間発展を図2に示す。図3にスケーリング理論で求めた  $\langle(\Delta I)^2\rangle_{sc}/I_{sc}^2$  と、Arecchi et al. が、実験の解析に用いた  $\langle(\Delta I)^2\rangle/I^2$  を示す。スケーリングの結果で、 $\mu = 1$ ,  $t_1 = 0$  (つまり  $\tau_1 = \frac{\epsilon}{2}$ ) とおいたのが、Arecchi et al. の式と一致することがわかる。

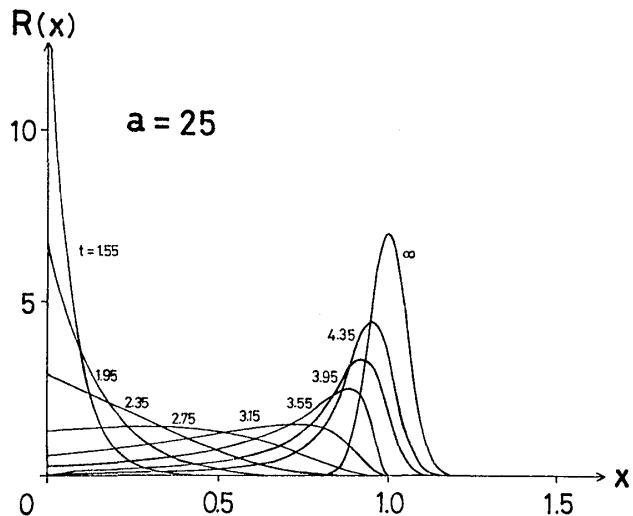


図1.  $a = 25$  の場合の分布関数の時間発展

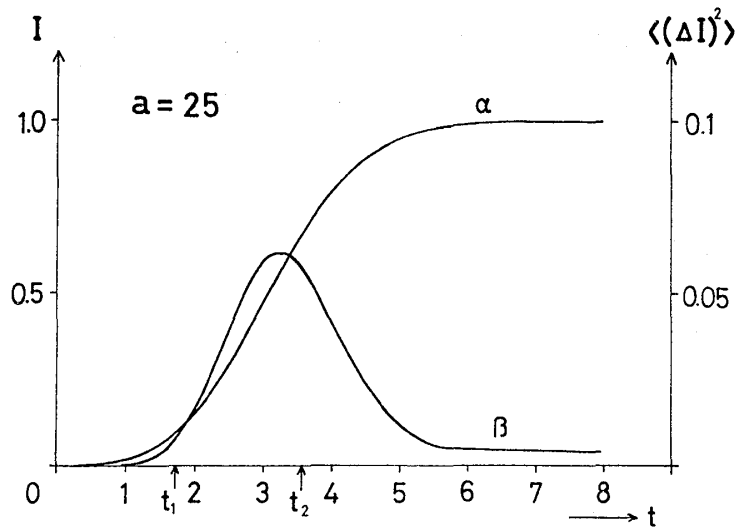


図2 a = 25 の場合の光強度 ( $\alpha$ ) とゆらぎ ( $\beta$ ) の時間発展

Scaling

$$\frac{\langle(\Delta I)^2\rangle_{sc}}{I_{sc}^2} = \frac{\zeta\{1+E(\zeta)\}-E(\zeta)^2}{\{1+E(\zeta)\}^2}, \quad \tau = \frac{\epsilon}{2} e^{2t}$$

$$\zeta = [2\mu(\tau - \tau_1)]^{-1}, \quad \mu = 1 - \frac{\epsilon}{2\tau_1}.$$

Arecchi et al.,

$$\frac{\langle(\Delta I)^2\rangle}{I^2} = \frac{\varepsilon\{1+E(\varepsilon)\}-E(\varepsilon)^2}{\{1+E(\varepsilon)\}^2}, \quad \varepsilon = [\epsilon(e^{2t}-1)]^{-1},$$

$$E(\zeta) = \zeta e^\zeta \int_0^\zeta t^{-1} e^{-t} dt = -\zeta e^\zeta \Gamma(0, \zeta).$$

図3 スケーリング理論のスケーリング領域での  $\langle(\Delta I)^2\rangle_{sc}/I_{sc}^2$  と, Arecchi et al. が実験の解析に用いた  $\langle(\Delta I)^2\rangle/I^2$  の表式の比較。

最後に, 最近長谷川先生, その他<sup>9)</sup>によって議論されている entropy production rate の時間発展を図4に示す。不安定点近傍では  $dp/dt > 0$  なる時間帯があることがわかる。(pは entropy production)

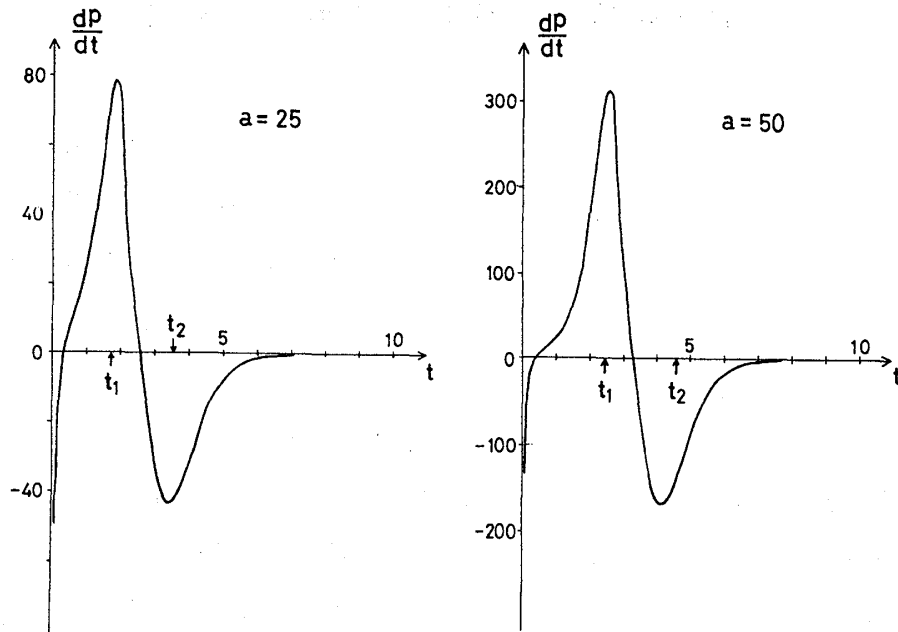


図4  $a = 25$  と  $a = 50$  の場合の entropy production rate  $dp/dt$  の時間発展

参 考 文 献

- (1) F. T. Arecchi and V. Degiorgio, Phys. Rev. A3 (1971) 1108
- (2) M. Suzuki, Prog. Theor. Phys. 57 (1977) 380 及びこの中の Ref.
- (3) H. Risken, in "Progress in Optics", vol. VIII, ed. E. Wolf (North-Holland 1970)
- (4) H. Risken, Z. für Physik, 186 (1965) 85
- (5) H. Risken and H. D. Vollmer, Z. für Physik, 204 (1967) 240
- (6) M. Sargent III, M. O. Scully and W. E. Lamb, Jr., Applied Optics 9 (1970) 2423
- (7) Y. K. Wang and W. E. Lamb, Jr., Phys. Rev. A8 (1973) 866
- (8) R. Kubo, K. Matsuo and K. Kitahara, J. Stat. Phys. 9 (1973) 51
- (9) H. Hasegawa, Prog. Theor. Phys. 57 (1977) 1523; H. Hasegawa, S. Sawada and M. Mabuchi, the 4th Rochester Conference (pre-print)